

オープン市場短信 (2015年11月)

2015. 11. 4

◆ 10月のCP市場動向

10月のCP（短期社債）月末残高は14兆8144億円と、15か月ぶりに前年同月を下回る結果となった。前月比では、834億円の増加であった。10月は、期末要因剥落から一般事業法人では増加となったものの、金融機関とABC Pが減少した。一般事法で6922億円の増加となったが、直近一年間での四半期明けの増加額が常に1兆円を超えていたことを勘案すると、かなり少ない額となっている。その他金融は、729億円の増加となった。一方、金融機関が5412億円の大幅減少となり、ABC Pは1405億円の減少となった。

発行レートの動きについては、最上位格付け銘柄では0.07%台前半～0.07%台後半、a-1格の一般事業法人も0.07%台前半から0.09%台半ばでの出合いが中心となった。発行が膨らまないことも影響し、投資家やディーラーの購入ニーズが強く、月中を通して低下地合いが続く動きとなった。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄(a-1+格)0.072%～0.074%。一般事業法人(a-1格)0.071%～0.090%。
その他金融銘柄(a-1格)0.070%～0.135%。

【業態別残高内訳】

(単位: 億円)

業 態	10月末残高	9月末残高	増 減
一般事法	34,567	27,645	6,922
その他金融	61,585	60,856	729
金融機関	37,109	42,521	-5,412
政府系金融	200	1,600	-1,400
銀行等	13,150	15,950	-2,800
証 券	23,759	24,971	-1,212
ABC P	14,883	16,288	-1,405
計	148,144	147,310	834

(注: 買入消却分含む)

【格付け別の発行レート】

10月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1ヵ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	0.0778% ~ 0.0789%	0.0720% ~ —	— ~ —
a-1 (一般事法)	0.0715% ~ 0.0940%	0.0710% ~ 0.0880%	0.0710% ~ 0.0900%
a-1+(リース銘柄)	0.0750% ~ 0.0800%	— ~ —	0.0720% ~ 0.0740%
a-1 (リース銘柄)	0.0670% ~ 0.0980%	0.0839% ~ —	0.0700% ~ 0.1348%
a-2	0.0970% ~ ケ0.35%	0.0980% ~ ケ0.35%	0.0990% ~ ケ0.35%

《CPオペ》

CP買入オペは、6日・19・27日と各回4000億円にて実施された。10月中の発行が少なかったことや発行レートの低下も影響し、ディーラーのオペ対応も目線を抑える格好となったと思われる。オペレートは、按分レートが0.06%台、足切レートが0.07%台で推移した。

【月末オペ残高：2兆1990億円】

日銀CP等買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
10月6日	10月9日	4,000	8,679	4,000	0.064%	0.071%	70.1%
10月19日	10月22日	4,000	6,486	4,000	0.068%	0.076%	全取
10月27日	10月30日	4,000	8,300	3,993	0.065%	0.073%	12.2%

《ABCP》

ABCPの月末残は、期末要因が剥落したことから、前月比1405億円減の1兆4883億円。前年同月比では、24億円の減少であった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、10月末時点における発行登録企業数は動きなく、511社のままであった。通算の発行企業数も変わらず、554社であった。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、レポレートがワイドレンジで推移したものの、CP現先レートは月中0.07%近辺から0.09%台で推移し、漸く月末越えで0.06%台～0.07%近辺での出会いとなった。

◆ 11月のCP市場動向

11月のCP償還額は約2兆3200億円で、前年同月の償還額(約2兆3700億円)

に比べほぼ同レベルとなっている（除く、相対発行分・金融機関発行CP・ABC P）。

今月の発行動向は、一般事法では賞与資金手当ての対応の発行が例年通り中旬以降行われるだろう。大手企業の冬季賞与については、経団連の発表（10/30）では昨冬より3年連続の増加で3.13%増となっている。

しかし、先月期明けでも新規発行が伸び悩み、企業のCPによる資金調達ニーズがやや落ち込みを示していることから、賞与関連での発行があっても大幅な残高増には繋がらないと思われ、月末残高は15兆円台後半と推測される。

発行レートについては、ショートターム物では若干の上昇地合いが予想されるが、投資家の運用ニーズが引き続き旺盛であるため、1M物以上のターム物の発行案件に関しては、ほぼ横這いから若干低下地合いでの推移を予想する。

最上位銘柄は、0.06%台前半から0.07%台前半での出合いを予想する。一般銘柄では0.07%台前半～0.09%近辺で、発行量の多い銘柄では0.08%台後半から0.09%台半ばでの出合いを予想する。その他金融・リース銘柄（a-1格銘柄）では、0.08%台前半～0.12%台を予想する。

《CPオペ》

今月は、5日・16日が各々3500億円、25日が4500億と、計3回の入札が予定されている（10月は各回4000億円）。5・16日のオペは、先月よりもオファー額が減少しているものの、新規発行が少ない中投資家ニーズが強くセカンダリーが活発に取引されていることから、レートは横這い推移を予想する。25日のオペはオファー額増加となるが、中旬以降の発行増が影響して、横這いから若干上昇地合いとなるのではないかと。但し、何れもオペ応札可能銘柄如何によると思われる。

《CP現先市場》

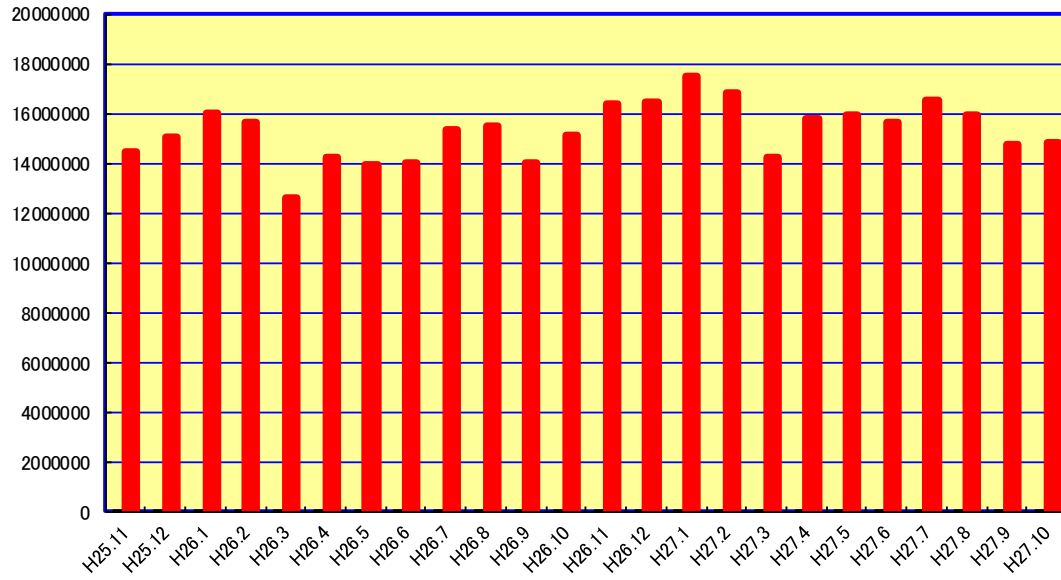
S/N物のレポレートは、先月同様に0.03%割れ～0.08%前後のワイドレンジでの出合いが予想される。インターバンクレートは、0.073%～0.078%での出合いが予想される。CP現先レートは、0.06%台～0.08%近辺での出合いを予想する。

参考資料

短期社債月末残高 (25年11月～27年10月)

発行登録企業：511社（発行実績あり554社）

(過去2年間の残高を表示)



10月末発行残高ベスト20

10月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	10月末残高	9月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	823,700	816,900
2	三菱UFJリース	788,400	796,600
3	SMBC日興証券	692,800	698,600
4	三菱UFJモルガンスタンレー証券	656,600	768,300
5	東京センチュリーリース	626,500	627,000
6	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
7	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	453,280	520,920
8	大和証券	424,110	406,950
9	JXホールディングス	395,000	452,000
10	みずほ証券	374,300	417,100
11	三菱商事	378,000	30,000
12	芙蓉総合リース	353,200	350,200
13	日本証券金融	344,000	326,000
14	JA三井リース	332,000	342,000
15	興銀リース	330,600	327,500
16	三井住友信託銀行	330,400	549,400
17	エイペックス・ファンディング・コーポレーション	300,090	313,480
18	JFEホールディングス	255,000	86,000
19	ジャックス	240,000	237,000
20	ホンダファイナンス	226,000	223,000

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会